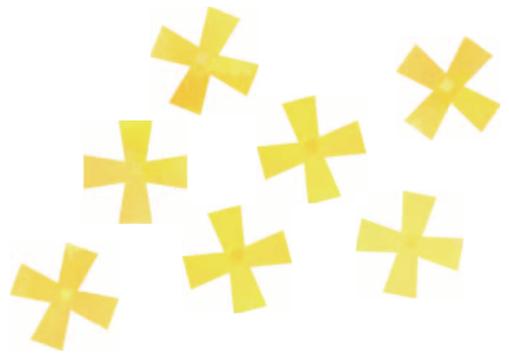


菜の花

NHO IBUSUKI MEDICAL CENTER



No. 46
令和2年1月



(開聞岳)

当院のロゴマークは、指宿市が誇る「菜の花」をモチーフにしています。



たくさんの黄色い円は花の部分を表しており、菜の花は小さな花が集まって1つの花を形成しているというように、病院のスタッフ1人ひとりが集まって、病院という組織があるのだということを表現しています。

緑の弧は菜の花の葉と、病院（花の部分）には新しい風が常に舞い込み、また病院が地域に新しい風を送り出しているという「風」のイメージを示しています。

contents

P.2 “多職種チーム医療”	P.8 指宿南九州消防組合との事後検証会
P.3-5 第7回指宿医療センター市民公開講座	P.9 職場紹介
P.6 第73回 国立病院総合医学会報告	P.10 指宿 菜の花通信
P.7-8 消防訓練を実施しました	外来診療担当医一覧

理念

患者さまにやさしく、

地域に信頼される

良質な医療の提供をめざします。

運営方針

- 1 がん診療の治療の向上をめざします。
- 2 成育医療の充実をめざします。
- 3 救急医療の充実をめざします。
- 4 地域医療機関との連携を図り、説明と同意に基づいた安全で質の高い医療をめざします。



” 多職種チーム医療 “



院長
鹿島 克郎

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

今年の子年でオリンピックイヤーです。1964年の東京オリンピックを機に日本は高度成長期を迎えましたが、2020年東京大会では、“スポーツで世界と未来を変える”をテーマに社会にポジティブな変革をもたらすことを目指しています。

今年の春以降は、オリンピックとパラリンピックの話題で社会は盛り上がりを見せるでしょう。そこで、世界各地から日本を訪れる外国人をどのように“おもてなし”するかも重要になります。

医療現場でも外国人患者に対する対応を充実させることが急務になってきました。指宿は温泉観光地とあって以前から中国、台湾からの旅行者が多く、中には救急外来に搬送される方も時々います。冬場のヒートショックが原因のこともあります。過密日程による疲労と塩分摂取過多（旅行中の食事は美味しいですが塩分が多い傾向にあります）などが原因で急性心不全を発症する旅行者もいます。

最近、救急外来での言葉の問題は、SNSを駆使してクリアできることが多くなりました（台湾の方は、漢字の筆談で問題なしです）。しかし、心のケアに難渋することが多々あります。病気に対する不安だけでなく、急な日程変更を余儀なくされたことで、患者さんの精神状態が不安定になっているからです。同伴しているツアーガイドさんが協力してくれますが、われわれ医療従事者も彼らの精神的なサポートまで配慮する必要があります。そのためには、日頃からの多職種チームで取り組む準備をしなければなりません。

オリンピックイヤーの今年、多くの外国人を日本に迎える事になりますが、外国人患者さんにも優しい医療機関を目指してチーム医療を磨いていきたいと思えます。

さて、昨年12月、第7回指宿医療センター市民公開講座を開催しました。テーマは“ふれふれフレイル予防”で、高齢者を中心として175名の参加がありました。フレイルとは、加齢により心身が老い衰えた状態のことです。

講演では、ロコモ体操や認知症との関連、食事でのフレイル予防、慢性腎臓病など、4名の演者（理学療法士、認知症看護認定看護師、管理栄養士、腎臓内科医）が熱く語ってくれました。高齢者の再入院を予防するためには、病気の治療だけではなく、患者さんの生活習慣や家庭環境、家族構成まで理解し、多職種が連携して取り組む必要があります。そして病気発症の上流にある高齢者のフレイル予防を積極的に行うことで地域社会の健康寿命を延伸できるでしょう。

真剣に多職種チーム医療に取り組む1年にしたいと思います。

第7回指宿医療センター市民公開講座

経営企画係長 藏本 剣



令和元年12月8日(日)、指宿市民会館大ホールにおいて、第7回指宿医療センター市民公開講座「高齢者の健康づくりを応援ふれふれフレイル予防!」を開催しました。

当日は175名もの市民の皆様にご来場いただきました。

講演1 「ロコモ体操の理論と実践」

1

講師：指宿医療センター 理学療法士 原口 晋一

加齢・病気・けがなどが原因で筋力の衰えや膝や腰の痛みにより足腰が弱った状態(ロコモ)の説明やロコモの状態を改善するための体操について講義を行いました。

また、会場の皆様と座って実施できる肩周りの運動やかかと上げ・つま先上げの運動を行いました。



講演2 「フレイルと認知症」

2

講師：指宿医療センター 認知症看護認定看護師 中村 真子

認知症の症状と行動・心理状況からフレイルにどのようなようになっていくのか解説を行いました。

また、会場の皆様と口腔体操や認知症予防となる脳と指を使った体操を実践しました。



講演3 「普段の食事でフレイル予防」

3

講師：指宿医療センター 栄養管理室長 崎向 幸江

健康長寿のための食生活について、1日のたんぱく質食品の摂取の目安について等、実際の食事の改善前・改善後の写真を紹介しながら分かりやすく解説を行いました。



講演4 「腎臓の働きと慢性腎臓病(CKD)」

4

講師：指宿医療センター 腎臓内科医長 古城 卓真

腎臓の大きさは拳の大きさで、普段腰が痛くてトントンしている所から少し上の位置に腎臓があるんだよという分かりやすい説明から始まり、腎臓病の症状や治療方法まで解説を行いました。質疑応答ではご自身の症状に関する踏み込んだ質問も飛びだし、「これ以上は診察になるのでぜひ外来にお越し下さい」という講師の返答に会場はなごやかな笑いに包まれました。



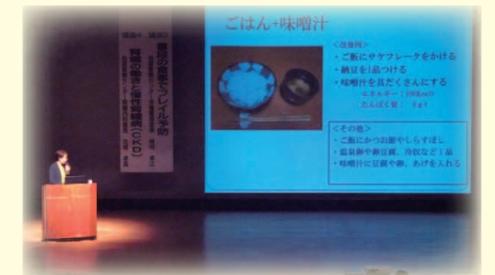
「進行・質問コーナー等」

司会：指宿医療センター 副院長 相星 壮吾

司会進行は、副院長の相星が務めました。講演前には、会場の皆様にご健康の秘訣をお伺いするなど大いに盛り上がりました。講演ごとに行われた質疑応答では、当日の講演に関する質問だけでなく、日頃市民の皆さんが疑問に思っていることや感じていることなど様々なご意見が飛び交いました。



第7回指宿医療センター市民公開講座



第73回 国立病院 総合医学会 報告

令和元年 11月8日(金) 9日(土)
名古屋国際会議場

『令和における国立医療の挑戦 ～明日は変えられる～』をテーマに開催され、当院での取り組みについて8題の発表を行いました。

ポスター部門では、学会の発展に貢献しうる優秀な演題に対して『ベストポスター賞』が選定されます。今年度は、3題がベストポスター賞に選ばれました。

※ (🌸)のマークがベストポスター賞です)

セッション	発表形式	テーマ・発表者
栄養評価	ワークショップ	高齢の心不全患者における食習慣と環境 ～低栄養予防の観点から～ 栄養管理室 谷 若奈
リハビリテーション 摂食嚥下	口演	誤嚥性肺炎を呈した成人期のダウン症候群の症例 リハビリ科 肥後 堯志
感染管理 抗菌薬適正使用・AST	ポスター	ICT,AST チームの挑戦 尿培養提出率向上による抗菌薬適正使用に向けて 検査科 富園 正朋
リハビリテーション 集中治療・循環器疾患	ポスター	当院における心臓リハビリテーションの取り組みと今後の課題 リハビリ科 山田 大輔
急性期病院による 退院支援	ポスター	地域医療連携室における入退院支援の現状と今後の課題 地域医療連携室 濱田 里香
看護業務 診療体制	ポスター	🌸 指宿医療センターにおける医科歯科連携の取り組み 摂食嚥下機能改善検討委員会 原口 彰太
看護実践 退院支援	ポスター	🌸 緊急にて心臓カテーテル治療を受けた患者の退院までの思い ～明らかになったニードから考える退院支援～ HCU 鮫島 寛子
看護師のストレスと支援	ポスター	🌸 混合病棟での小児看護に関するストレス軽減の取り組み 2病棟 坂本 有香

発表者の感想

第73回国立病院総合医学会に参加し、指宿医療センターでの医科歯科連携に至る経緯、口腔ケアラウンド実績、また事例を通しての介入についてポスター発表を行いました。初めて学会に参加し、発表内容も大切であるが、聴く人に伝える方法や見せ方の工夫の大切さも学びました。他の発表を聞くことで他施設における取組など、新たな発見や知識の習得をすることができました。今後、当院における口腔ケア実施の改善につなげていけるようにしていきたいと思います。



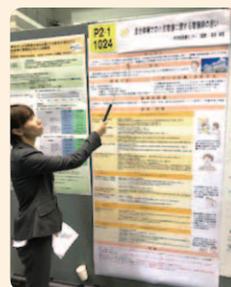
<摂食嚥下機能改善検討委員会 原口 彰太>

第73回国立病院総合医学会にて看護研究の発表を行いました。研究を行うにあたり6名の患者様にご協力頂き、入院中に抱く思いについてインタビューを行いました。患者様は看護師が思っている以上に不安や疑問を抱えており、退院支援の大切さを改めて実感することが出来ました。今回の研究で明らかになった支援内容を実践することで、患者様が安心して入院生活を送れるよう取り組んでいきたいと思っております。



<HCU 鮫島 寛子>

第73回国立病院総合医学会に参加し、混合病棟での小児看護に関する看護師の思いについて発表をしました。たくさんの部門に分かれ、様々な発表が行われているため、他施設の発表を聞くことで刺激や新たな発見をすることができました。私は、今回の研究で看護師の思いを聞き、混合病棟で働く看護師は、喜びの中に不安や葛藤を抱えていることを知ることができました。今後、看護師の知識・技術の向上を図り、より良い看護を行えるよう取り組んでいきたいと思っております。



<2病棟 坂本 有香>

今回の発表では、それぞれの部門の取り組みをまとめ、次の課題が明確になりました。今後も指宿医療センターの医療・看護の質向上に向けて積極的に取り組んでいきたいと思っております。

消防訓練を 実施しました



庶務班長 堀口 広文



令和元年10月30日、今年度第1回目の消防訓練を実施しました。

今回は新病棟を火元とした初めての訓練となります。火報システムの確認や避難ルートの検討に時間をかけて準備を行いました。

打ち合わせをする中で、旧病棟については「東側、西側」の認識がしっかりあったようですが、新病棟は旧病棟と違い、東西南北のわかりにくい建物配置となっているため、防火管理委

員会にて「A側」（北東側）「B側」（南西側）とすることとしました。

15:00（想定時刻は13:00）、3病棟カンファレンスより出火。火元に赤い布を置き、感知器を強制的に反応させ訓練スタートです。非常ベルが鳴り響く中、看護師が現場確認。「火事だ!」の音が響き、自動音声放送が始まりました。別の看護師が消火器を持ち駆けつけ初期消火を行います。また管理棟からも消火班が駆けつけ初期消火に加わりました。

消火活動の他に、避難誘導も始まり、まずは模擬患者を区画外へ待避させ、その場で一時待機させた後、駆けつけた避難誘導班へ引き継ぎました。

継続して消火活動も行われています。時間の経過とともに駆けつける職員数も増え、それ



ぞれの役割を果たしています。

その中で想定外のことが起こりました。火災報知機の「本火災（火事確定）」ボタンを押していなかったため、非常放送の内容が「確認中です。職員の指示があるまでその場で待機して下さい。」の自動放送が延々と流れていました。そのため本部の放送が新病棟に限り聞こえないという事態に……。その後切り替え作業を行い放送が可能となりました。





職員の誘導により避難所に模擬患者が到着し、逐次避難完了の報告が本部に行われました。しばらくして「鎮火」の連絡があり、全病棟患者避難完了の最終確認を行い「避難訓練終了」を本部長（院長）が宣言しました。

消防署の講評では、「設備機器の取扱に慣れていない職員がいる。」「火災現場確認に行くときは電話の子機を持っていくこと。」「火報設備の親機がある2階に情報を集中させること。

（「本火災」ボタン押下が遅れる。）」など具体的かつ厳しい指導がありました。

講評のあとは、消火器取扱訓練及び病棟での業者による火災報知設備の取扱説明を行い、消防訓練は終了となりました。

火災に際しては、迷うことなく行動できるような訓練の必要性を感じ、また日頃より「火」を出さないことが重要であると感じました。

指宿南九州消防組合との事後検証会



経営企画係長 藏本 剣

当院では、地域の救急隊員の技術向上のため、年に2回、指宿南九州消防組合との間で救急搬送症例の事後検証会を実施しています。去る8月30日（金）、令和元年度第1回目の検証会が当院地域医療研修センターにて開催されました。検証会は、救急隊員が「胸痛（心筋梗塞）事案について」「胸部外傷（血気胸）事案について」の2案について発表を行い、それに対して当院の医師が意見や助言を行う形式で進められました。今回は外部から指宿医師会長、当院からは循環器科、小児科、眼科、外科、麻酔科の医師等が出席しており、様々な観点から情報交換を行うことができ、双方にとって収穫の多い検証会となりました。

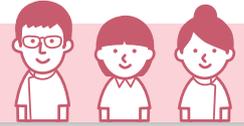
また、検証会終了後は意見交換会（懇親会）を行い、和やかな雰囲気の中、救急隊員との顔の見える交流を行うことができました。





職場紹介

NHO IBUSUKI MEDICAL CENTER



リハビリテーション科

理学療法士長 大浦 宏樹



リハビリテーション科は川畑リハビリテーション科医長を筆頭に、理学療法士4名、作業療法士2名、言語聴覚士1名、助手1名の計9名で運用しており、心大血管疾患等リハビリテーション科(Ⅰ)、脳血管疾患等リハビリテーション科(Ⅱ)、廃用性症候群リハビリテーション科(Ⅱ)、運動器リハビリテーション科(Ⅰ)、呼吸器リハビリテーション科(Ⅰ)、がん患者リハビリテーション科の施設基準を取得しています。主に脳神経・筋・骨格・循環器系の疾患により生じた、移動・身の回りの動作等の障害に対して、失われた機能の回復や残された能力を最大限

引き伸ばすための治療を行い、患者さんが家庭復帰や社会復帰が出来るように援助しています。

また、地域包括病床入院患者さんへのリハビリ訓練や、最近新規導入した「心臓リハビリシステム」を活用しての心臓リハビリテーションにも力を入れております。

チーム医療の要となるように他部門との連携を深め、地域住民の方々にも信頼されるようにスタッフ一丸となって頑張っていく所存です。



2階病棟

看護師長 仁井田 康男



2階病棟では、主に消化器内科と小児科の患者さんを受け入れています。

消化器内科は、上下部内視鏡での検査・治療を受ける患者さんが多く入院されます。適切な治療が受けられるよう看護することはもちろん、不安を抱える患者さんの思いに寄り添い、安心して療養生活が送れるよう看護職員32名が心を込めて看護をしています。

小児科では、地域で唯一、入院を受け入れている病棟です。子どもは症状が変わりやすい上、言葉で伝えることができません。少しの変化も見逃さないような観察に心掛けています。

急性期を乗り越え病状が安定して、住み慣れたご自宅に戻る準備期間が必要な患者さんのために、地域包括ケア病床も14床備えています。医師やリハビリスタッフ、医療ソーシャルワーカーなど多職種と連携しながら、患者さんをご家族中心の退院支援を手厚く行っています。

高齢化の進む中、認知機能にサポートの必要な患者さんも増えています。当病棟には認知症看護認定看護師が在籍しており、患者さんが「その人らしく」安心して過ごせるよう専門性の高いケアを実践しています。



田舎医者の流儀 (111)・・・遠方からの患者さん

11月初旬、91歳女性の患者さんが私に診察を受けたいと指宿までみえた。「5～6年前よりフラツキがあり5年前地元の病院でペースメーカーの植え込みを受けた。その後フラツキはよくなったが最近また酷くなってきた。歩くとフラツキが酷く、座ると落ち着く」という。

離島からの方で、飛行機で鹿児島まで1時間弱、空港から鹿児島市まで約50分、そこからさらに1時間以上汽車に乗り、おそらく指宿に宿泊されたのであろう、朝早くの受診であった。当然、びっくりしてなんでまた「田舎医者」の私にわざわざ診察にみえたのかお聞きした。「11月初めに、新聞に先生の記事が出ていたので、ぜひ診察を受けたいと来ました」とのこと。60歳代の娘さんが一緒に付いてみえた。

確かに、地元紙南日本新聞南風録に「厚生労働省が全国424の公的病院を再編・統合の議論が必要との認識を示し、鹿児島県も8か所の病院が名指しされた」。「それに関する国の説明会が福岡であり、診療実績など数字だけの判断に対して九州各県の関係者から反発の声が上がった」という記事の中で私が昨年自費出版した「田舎医者の流儀」という本のことが取り上げられた。そこで「聴診器を当て、患者さんの体と対話することが大切」「言いたいことと聞きたいことを話してほしい」などという私の診療姿勢が紹介されていた。

一通りの診察・検査をして、「軽い心不全状態にあります、その原因としては心臓の血液を押し出す機能は保たれていますが、心臓の血液をため込む機能(拡張能という)が低下しています。これは年齢から来たもので、薬を調整すると改善すると思います」「ペースメーカー植え込みをしているので、脈拍低下によるフラフラではなく、血圧がいつも110～120台という事なので91歳という年齢を考慮すると低くすぎると思います。血圧を150前後になるように薬を調節したほうが体調は良くなると思います」などと話をした。

患者さんがおっしゃるには「初めて、そんな説明を聞いた」という。「あまり遠慮しないで、なんでも疑問な点は主治医に聞かれたらいいですよ」と話すと、「忙しいのか、あまりこちらの言うことに耳を傾けて頂けない。一方的にしゃべって、とてもいろいろ聞けない」という。患者さん側の一方的な意見なので、主治医にも言い分があると思う、しかし、少なくとも患者さんは納得できないで遠方の田舎医者を訪ねて見えた。主治医の治療は確かにガイドラインに沿って間違っていないが、もう少し患者さんの訴えに耳を傾けて頂ければ、もっと納得して頂ける治療になったように思う。



外来診療担当医一覧

令和2年1月1日現在

診療科等		月	火	水	木	金	備 考
循環器内科	午前	鹿 島	吉 重	鹿 島	松 本 畑	鹿 島 重	
総合診療内科	午前	松 本	花 田	中 村	花 田	中 村	
消化器内科	午前	山 筋	(休 診)	原 口 森内 (肝内)	原 口	山 筋	肝臓内科は、28番診察室にて行います。
小 児 科	午前	相 星 関	相 星	相 星 関	相 星 関	相 星 関	午後診療受付 月・火・木・金曜日 14～16時 水曜日 15時～16時 予防接種 (毎週月曜・水曜・金曜日) 受付13時30分～14時30分 健診 (要予約) 受付13時30分～14時30分
	午後	荒 武 西 藤	荒 武	西 藤	西 藤	荒 武 西 藤	
外 科	午前	(手術日)	宮 菌 後	宮 菌 後	(手術日)	(手術日)	金曜は予約患者のみの診療となります。
泌尿器科	午前	川 原	(手術日)	川 原	川 原 (再診のみ)	川 原	
腎 臓 内 科	午前		古 城		古 城		15番診察室にて診察します。
産 婦 人 科	午前	大 濱 神 崎	大 濱 神 崎	(手術日)	大 濱 神 崎	大 濱 神 崎	1ヶ月健診 (月・金曜日: 要予約) 診療受付 母親12時～13時、新生児13時～14時
	午後	大 濱 神 崎	大 濱 神 崎 助産師 母乳外来	助産師 母親学級	大 濱 神 崎 助産師 母乳外来	(手術日)	午後診療受付 (水・金曜日以外) 14時～15時 (再診のみ) 母乳外来 (毎週火・木曜日) 母親学級 (毎月第2・3水曜日)
眼 科	午前	尾 辻	尾 辻	尾 辻	尾 辻	尾 辻	月曜・火曜・水曜は午後から手術のため受付は午前10時までとなります。 木曜・金曜の午後は特殊外来 (視力検査、レーザー治療、造影検査、硝子体注射など)
	午後	(手術日)	(手術日)	(手術日)	(特殊外来)	(特殊外来)	
専 門 外 来	午前	呼吸器内科			呼吸器外科		呼吸器内科 毎週月曜日 予約制 呼吸器外科 毎月第2・4木曜日 予約制 (午前診療のみ) 小児循環器 毎週月～金曜日 予約制 (14時～15時) 小児慢性疾患 毎週月～金曜日 予約制 (14時～15時) もの忘れ外来 毎週水曜日 予約制 (14時～16時)
	午後	小児慢性疾患 小児循環器	小児慢性疾患 小児循環器	もの忘れ外来 小児慢性疾患 小児循環器	小児慢性疾患 小児循環器	小児慢性疾患 小児循環器	
内 視 鏡 検 査		原 口	山 筋 原 口	山 筋	藤 井 山 筋	赤 崎 原 口	
緩 和 ケ ア 外 来				要 予 約			随時予約受付

- 受付時間 午前8時15分～午前11時00分
- 診療時間 午前8時30分～午後17時15分
- 休診日 土・日・祝祭日・年末年始 ※緊急の方は随時受付いたします。
- 電話番号 0993-22-2231

面会時間 平日は午後2時から8時まで
土曜、日曜及び祝祭日は
午前11時から午後8時まで

発行：独立行政法人国立病院機構 指宿医療センター
〒891-0498 鹿児島県指宿市十二町4145番地
TEL：0993-22-2231 (代表)
FAX：0993-22-2772 (地域医療連携室)
URL：https://ibusuki.hosp.go.jp
印刷：隴文社印刷株式会社